

令和3年度 第2回 金沢大学 公開臨海実習 実施計画書

実習タイトル	「能登半島の海洋動物相と生化学実習」		
<p>海洋には様々な生物が棲息しており、陸上には見られない多くの分類群が特異な生活を送っています。特に本施設が位置する能登半島周辺は地形の複雑さを理由として、多様な海洋生物を観察することができます。本実習では、夏の能登半島における海洋動物の採集・観察・同定を行う野外実習と、海洋生物を材料とした生化学の基礎的操作を学びます。</p> <p>野外実習では沿岸性の底生動物と浮遊生物を対象に、磯での採集、実習船からのプランクトンネット及びドレッジによる採集、水中メガネ・シュノーケル・フィン・ウェットスーツを装着した水中観察を通して、動物の採集・観察法の基礎を学びます。採集した生物は施設に持ち帰り、肉眼および顕微鏡で観察・同定します。実習中には講義も行われ、多様な動物相が存在する背景や知識を学習し、実習で得られた知見をより深い理解につなげます。</p> <p>生化学実習は次の2コースから1つを選べます。魚類生化学実験コースでは、生きている海産魚を使用して魚類の麻酔・試料の経口投与・注射器による採血・分光光度計を用いた生化学試験を実施します。また実験計画設計からデータの統計解析まで、研究を始めるために必要な知識を学習します。海産無脊椎動物分子生物学実験コースでは、モデル動物の一つであるカタユウレイボヤを用います。トランスジェニックホヤを用いた遺伝子局在解析や哺乳類細胞株を用いたホヤ転写因子の細胞内局在解析などの実習を通じ、海産無脊椎動物の研究を実践的に学びます。</p>			
実習内容キーワード	シュノーケリング、乗船、磯採集、海産無脊椎動物、生化学実験、魚類への経口投与実験、トランスジェニック		
担当教員氏名・所属・役職名	鈴木信雄（環日本海域環境研究センター・教授）・関口俊男（環日本海域環境研究センター・助教）・木谷洋一郎（環日本海域環境研究センター・助教）		
協力教員氏名・所属・役職名	布村 昇（環日本海域環境研究センター・連携研究員） のと海洋ふれあいセンター		
対象学生・学年	国公立大学学部 1～4年生（院生も可）	開講期間	令和3年9月6日（月）昼～ 9月11日（土）
開講大学・施設名	金沢大学環日本海域環境研究センター 臨海実験施設		
施設の住所	〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木ム 4-1		
電話	0768-74-1151	Fax	0768-74-1644
e-mail	nobuos@staff.kanazawa-u.ac.jp	Web Site	http://rinkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/
交通案内	金沢駅より実習施設まで往復ともマイクロバスで送迎予定です。9月6日、金沢駅に昼ごろ集合してください。詳細は採用決定後に本人へ連絡します。能登空港の利用（羽田-能登間1日2便運行）を希望する学生は事前に連絡して下さい。		
費用	3,400円（宿泊費、クリーニング代、のと海洋ふれあいセンター入館料）と毎日の食費。シュノーケリングに参加する場合は器材使用料等として1,000円必要です。詳細は採用決定後に本人へ連絡します。		
授業科目名	臨海実習2（野外実習2）		
単位数	2単位 ※公立大学の学生については単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します。	定員数	7名
授業料の徴収について	徴収しません。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	7月9日（金）17時必着		
選抜結果連絡法	本人宛に受講許可証を郵送します。		